

ウラ指導の一発逆転模試が的中する理由

「用語の定義」項目からの 出題傾向一覧(平成3年～22年度)			考察
小項目	H3～H12年度 問題コード	H13～H22年 度	
建築物	05012		<p>何故、「一発逆転模試は的中するのか?」について説明させていただきます。ご存知の通り、学科試験の試験範囲は非常に膨大です。ただし、出題される問題数は、計画20問×4選択肢＝80選択肢、環境・設備20問×4選択肢＝80選択肢、法規30問×4選択肢＝120選択肢、構造30問×4選択肢＝120選択肢、施工25問×4選択肢＝100選択肢、となります。これを1問1答式で考えると、かなり絞られた問題数でしか受験生を試すことができない、という絶対的なルールが存在し、それこそが学科試験を攻略する上での最大のポイントであることがわかります。尚、1教科は、約30程度の項目に分類することができます。左側の表には、法規科目の「用語の定義」という項目における平成3年～22年度までの20年分の出題傾向を一覧化したものです。「用語の定義」という項目は、「建築物」、「特殊建築物」、「建築設備」といった小項目にさらに区分されます。</p>
	08013	「19014」	
	10014	「13011」	
特殊建築物	09011	「14011」 「16011」 「18013」 「19011」 「22011」	<p>話は変わりますが、これまでの過去問題を1問1答式に直し、それらを全てデータベース化した上で多角的に検証を繰り返したところ、ある法則が見えてきました。それを分かり易く説明しますと、この学科試験に合格するために必要となる知識がある項目(例:用語の定義)において、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5つあったとします。そのうち、ある年に、「C」について出題されたとしましょう。その翌年には、「A」が出題されたとします。すると、さらに次の年には、「B」、「D」、「E」のうちのいずれかが出題されます。仮に、「B」が出題されたとしたら、その次には、「D」か「E」のうちのどちらかが出題される可能性が高くなるわけです。ちなみに、新問題として、「F」という知識が出題された場合には、学科試験合格のために必要になる知識は、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」、「F」の6つに増えます。皆さんも、「効率よく学科試験を合格するためには、過去問題をマスターすればよい」という話をしばしば耳にしてきたと思いますが、その最大の理由は、過去問題をマスターすることによって、先に述べた合格するために必要となる知識(「A」、「B」、「C」、「D」、「E」、「F」)を最も効率的に、かつ、短時間で把握することができるからです。</p>
	04011		
	11011		
	03011	「15014」	
	03013	「14015」 「15012」 「19013」	
建築設備	08012		<p>また、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」のうち、とりわけ、「B」の知識が重要で、「E」の知識がさほど重要でないものである場合には、当然、「E」に比べて「B」の方の出題頻度が増えます。場合によっては、連続して出題されることもあります。例えば、今回掲載した「用語の定義」という項目でいえば、「特殊建築物」、「建築設備」、「主要構造部」といった小項目の出題頻度が高いことが分かります。尚、これまで私達が、検証し続けてきた結果、平成3年以降の過去問題をマスターすることで、合格に必要な知識を完全に抑えられるということも判明しております。そのためウラ指導では、学科試験攻略法として、平成3年以降の過去問題をマスターすることを推奨してきました。ゆえに、この分析表においても、平成3年以降の過去問題についてその出題傾向を一覧化してあります。ただし、「一発逆転模試」では、これまでの出題傾向を徹底して分析した上で問題を作成しておりますので、平成3年以降の過去問題を完全にマスターしきれていない方であっても当然、ピンポイントな学習効果を得ることが可能です。</p>
	11012	「22012」	
	09013		
居室	04013		
	06011		
	12011		
主要構造部	03181	「13014」 「20014」	
	09014		
	05013		
	10012		
	03014	「16013」	
延焼のおそれのある部分	12015	「18014」 「20075」 「21013」	
	03012		
	05015		
設計図書	10011	「13015」	

ウラ指導の一発逆転模試が的中する理由

建築	04012 11014	「15011」 「19015」	左記の一覧表では、学科試験問題の過去問題を四肢択一ではなく各選択肢毎に、1問1答化し、全て5桁のコード表示により扱っています。はじめの2桁が「年度」、次の2桁が「問題番号」、最後の1桁が「何番目の選択肢か」を表します。 例：平成5年8問目3番目の選択肢の場合→コード05083 例：平成13年11問目2番目の選択肢の場合→コード13112
大規模の修繕	08011 03183 12014	「20012」	
建築主	05014		また、出題傾向の分析においては、H(平成)3～H12年までの10年分と、H13～H22年までの10年分とを次のように区分しています。 H3～H12年までの過去問題＝「10年分の基本問題(比較的、新問題の出題割合が低い)」 H13～H22年までの過去問題＝「近年問題(比較的、新問題の出題割合が高い)」
工事施工	12013	「13013」 「19012」	
敷地	08015 12012 04015		
地階	11015	「15013」 「20011」	左記の一覧表において、例えば、「建築物」という小項目についてH3年以降に出題された問題は、問題コード「05012」、「08013」、「10014」、「13011」、「19014」の5問であることが読み取れます。「建築物」という小項目については、平成3年～12年までの期間において、問題コード「05012」、「08013」、「10014」の3問が出題されています。さらに、近年(H13～22年度)においては、H13に問題コード「13011」、H19に問題コード「19014」として出題されているのが分かります。その際、問題コード「13011」は、問題コード「10014」の類似問題として、問題コード「19014」は、問題コード「08013」の類似問題として出題されています。また、「建築設備」という小項目の欄にある問題コード「14015」、「15012」、「19013」は、共に、問題コード「03013」の類似問題です。つまり、問題コード「03013」の類似問題が3問、近年問題として出題されていることが分かります。このように、各問題毎の重要度も判定することができます。尚、近年に出題されている問題の類似元となっている問題については、黄色で色付けしております。また、近年問題として出題されている小項目には、水色で色付けしております。
構造耐力上主要な部分	03015 06012 11013	「15015」	
耐水材料	07012 10013	「13012」 「16012」	
避難階	07014	「14014」 「16015」 「21011」	
外壁後退距離	07015		以上のような分析をもとに、各教科ごと、各項目ごと毎年、分析・検証を繰り返し、さらに、各種法改正状況や、「住宅関連法」、「懲戒処分」、「CASBEE」、「建築の地震PML評価」、「アスベスト対策」、「建築物の解体等(改修)に伴う有害物質等の適切な取り扱い」などといった新問題対策問題を加味した上で作成されている模試がウラ指導の一発逆転模試です。毎年、一発逆転模試の的中率が高くなる理由がここにあります。
防煙壁	09015	「20013」	